

規律を守り行動する生徒を育てる指導
—人間関係づくりを土台とした規範意識を高める実践を通して—
人づくり支援課 生徒指導支援班 長期研修員 土屋 雅信

1 主題設定の理由

平成18年に改正された教育基本法第6条の中で、学校教育の実施に当たり「教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」（注1）と明記された。現代社会の現状として、情報化や少子高齢化、核家族化などの環境の変容に伴い、多くの若者は地域や社会の中での交流経験が少なくなり、人間関係が希薄になっている。その結果、「自分さえよければいい」「他人に迷惑を掛けなければ何をしてもよい」という考えを持った若者が周囲の人に迷惑を掛ける例も見られ、社会全体としての規範意識の低下が懸念されている。

静岡県においても、平成24年に「静岡県きまりを守る子ども育成協議会」が立ち上げられ、「きまりを守る子どもを育てる10の提言」が示されるなど、児童生徒の規範意識の醸成が喫緊の課題となっている。

これまで勤務した学校では、生徒は授業や部活動に一生懸命取り組むことはできるが、授業中の私語や、学習に必要な物の持ち込みなどの問題行動も時折見受けられた。そして、周りに与える影響を考えず、自己中心的な考え方で行動する生徒が見られていたことから、規律を守り行動する生徒を育てる必要性を痛感していた。

学校は「社会性を育む機会」としての機能を果たす重要な役割も持っている。規範意識を高めるためには、学校生活において生徒同士が関わり合う場を意図的に設け、生徒同士の関係を良好にする働き掛けを行う必要があると考える。関係が良好になったことで、集団がよくなれば、「集団のためになることをしたい」「集団に迷惑を掛けるような問題行動を起こしたくない」という思いにつながり、生徒の規範意識を高めることになると考えられる。

そこで、学級活動や道徳の時間に構成的グループエンカウンターやスキルトレーニング、話し合いなどの意図的な活動による良好な人間関係づくりを通して、規律を守り行動する生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の目的

良好な人間関係づくりを土台とした構成的グループエンカウンター、スキルトレーニング、話し合いが、生徒の規範意識の向上にどのような効果があるのかを検証する。

3 研究の方法

- (1) 研究実践校（A中学校）の全校生徒に対して、「自尊感情」「気遣い」「規律」に関するアンケート調査を行う。同時に、全教員に対して、「規律指導」に関するアンケート調査を行う。

- (2) アンケート結果を分析し、人間関係づくりを土台とした指導計画を立てる。
- (3) 1、2年生の全クラスを対象に、朝自習、道徳の時間、学級活動の中で、構成的グループエンカウンター、スキルトレーニング、話し合いを行う。
- (4) 実践後、全校生徒と全教員に対して、再度アンケート調査を行う。良好な人間関係づくりを土台とした実践により、生徒の規範意識の向上にどのような効果があるかを検証する。

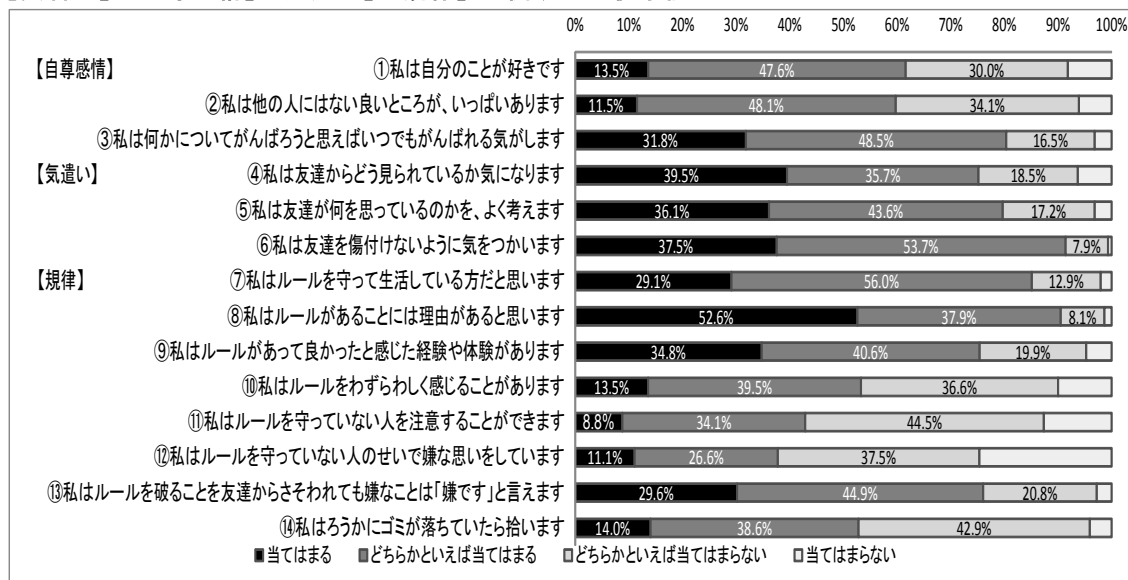
4 研究の内容

(1) 指導実践前のアンケート調査

ア 生徒への「自尊感情」「気遣い」「規律」に関する意識調査

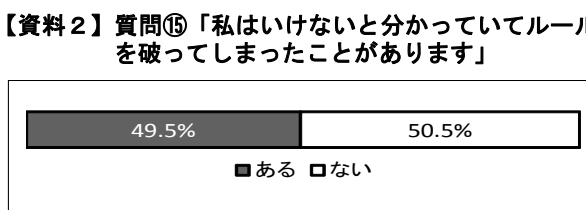
実態調査のため、7月に研究実践校（A中学校）の全校生徒461人を対象に「自尊感情」「気遣い」「規律」に関するアンケートを実施した。アンケートは4件法と自由記述による質問紙調査で行った。なお、アンケート中の「ルール」とは校内規則を指す。

【資料1】「自尊感情」「気遣い」「規律」に関する生徒事前アンケート



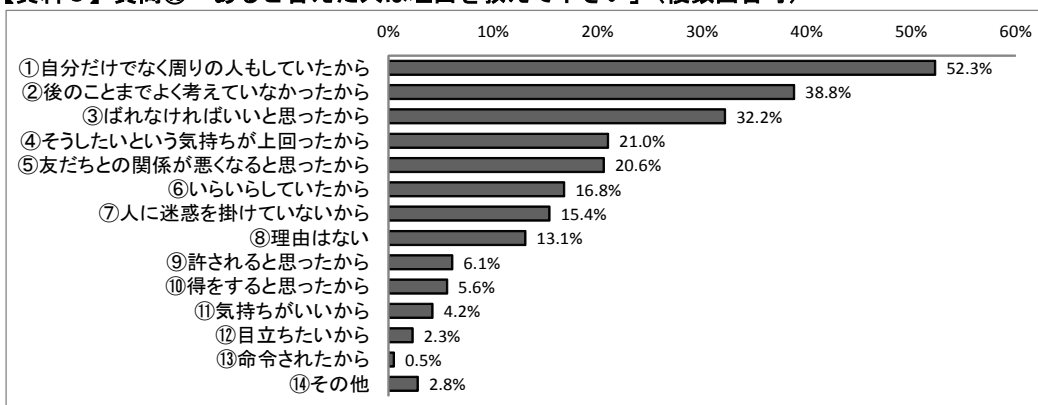
資料1は、「自尊感情」「気遣い」「規律」に関するアンケート結果である。「自尊感情」に関する項目を①から③、「気遣い」に関する項目を④から⑥、「規律」に関する項目を⑦から⑬とした。このアンケート結果をクラスごと分析し（資料7、8、9）、指導計画を立てた。

さらにアンケートで質問⑮「私はいけないと分かっていてルールを破ったことがあります」について2件法で質問した（資料2）。その結果、「ある」と答えた生徒は49.5%であった。全校生徒のほぼ半数であり、規律を守ることができていないと言えない状況である。



続いて、質問⑩「あると答えた人は理由を教えてください」で、14の選択肢の中から、複数回答可という形で質問した（資料3）。

【資料3】質問⑩「あると答えた人は理由を教えてください」（複数回答可）



ルールを破ってしまった理由で最も多かったのが、「①自分だけでなく周りの人もしているから」で52.3%の生徒が回答した。「ルールを破ってしまった」と答えた中の約半数の生徒が該当するという高い割合を示した。周りの人の影響を受けている原因を考えると、周囲の人との関係のつくり方に問題があるように思われる。

ルールを破ってしまった理由として二番目に多かった「②後のことまでよく考えていなかったから」は、そのような行動が及ぼす影響を、生徒同士複数で話し合う中で、異なる価値観に気が付いたり、教えられたりして学ぶことが不足していると思われる。

三番目に多かった理由として挙げられている「③ばれなければいいと思ったから」は「いけないことはいけない」という認識が十分育っていないように思われる。

これらのことから、手立てとして、①については、スキルトレーニングを行い、良好な関係づくりを学べるようにする、②については、ルールやマナーを題材にした話合いの場を多く設定する、③については、教師が毅然とした態度で指導し、生徒にその都度規範を伝えていくことが必要であると考えられる。

【資料4】質問⑪「ルールやルールを守ることについて思うことを書いてください」

生徒記述内容（抜粋）

記述者296人

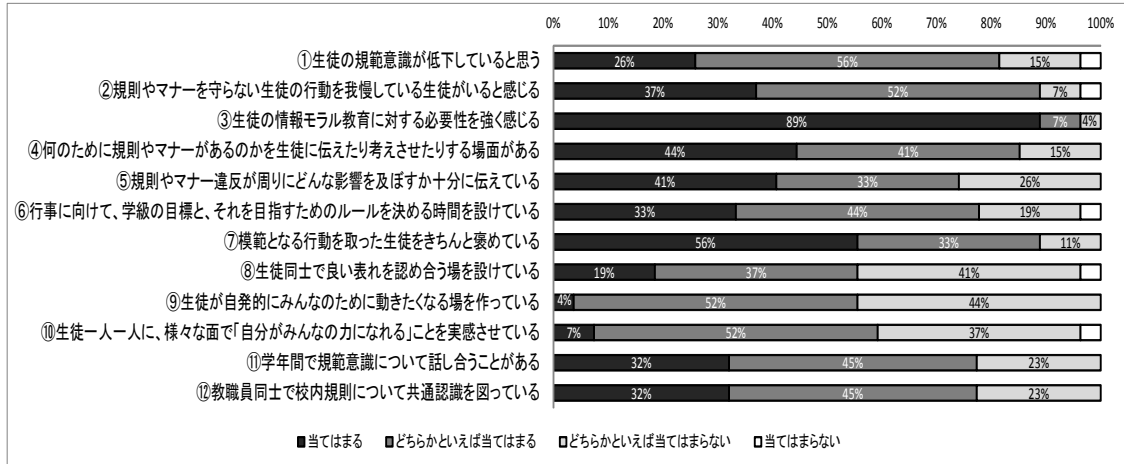
- ・ルールを守ることで、安全な生活ができ、安心できる。(90人)
- ・ルールは必要なもので、守るべきものである。(67人)
- ・人に迷惑を掛けないために守ったほうがいい。(28人)
- ・みんなが気持ちよく生活するためにあると思う。(27人)

資料4は「ルールやルールを守ることについて思うこと」を生徒が自由記述した内容である。人数の多かったものを主に挙げたが、ルールについて、「守ることで安全な生活ができる。」「必要で守るべきもの。」「人に迷惑を掛けないためのもの。」「みんなが気持ちよく生活するため。」と捉えている生徒が多い。このような回答をした生徒は規律の必要性を理解できていると思われるが、具体的になぜ必要なのかについて触れていない回答も多く見られた。そこで、ルールやマナーを題材にした話合い活動を多く行うことで、規律を守ることのよさが分かる生徒を更に増やしていくことができると考えた。

イ 教員への規律指導に関する調査

研究実践校の教員に規律指導に関するアンケートを4件法で行った（資料5）。

【資料5】規律指導に関する教員アンケート



質問⑦「模範となる行動を取った生徒をきちんと褒めている」という質問に対して「当てはまる」と回答した割合は56%であったのに対し、質問⑧「生徒同士で良い表れを認め合う場を設けている」は19%、質問⑨「生徒が自発的にみんなのために動きたくなる場を設けている」は4%と低い割合であった。教員からの働き掛けとして「良い表れを褒めている」ことは意識的に行われている一方で、生徒同士で互いによさを認め合う場が作られていない現状がある。生徒を対象にしたアンケートの質問④「私は友達からどう見られているか気になります」（資料1④）という項目に「当てはまる」と答えた割合は、39.5%を占めたことと関連付けると、周りからどう思われているかを気にしている生徒に対して、生徒同士で良い表れを認め合う場を設けることは大変有効であると考えられる。そこで、人間関係づくりの活動の中で、互いによさを認め合う場を設けることで、相手の立場に立つ大切さに気付かせていけると考える。

資料6は規則、マナーに対する表れとして、研究実践校の生徒の良い点と改善点を教員27人に聞いた内容をまとめたものである。良い点、改善点両方に「集団」の影響力の大きさが指摘されていることから、生徒同士の関係性を良好にし、周りの人の気持ちを考える場や機会を多く設けていくことが大切であると思われる。

【資料6】規則、マナーに対する生徒の良い点と改善点、教員記述内容（抜粋）

(質問⑬) 規則、マナーに対する表れとして、生徒の良い点と改善点はそれぞれどんなところだと思いますか。 ※□は論者が付した	
<p>○良い点 ＜意識面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律やマナーを守ろうとする生徒が多い。 ・他校に比べれば、規則を守っており、集団として守ろうという意識が強い。 ・良い行いをした生徒を評価すると自分もという生徒が多い。 <p>＜行動面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意されればすぐに直すことができる。 ・清掃の黙働。 ・規則違反をしている生徒を教師に伝える。 	<p>○改善点 ＜意識面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽な方へ、集団へ流されていく傾向がある。 ・細かいところまでルールが徹底されていない。 ・自分の言動がどんな結果を招くか想像できない <p>＜行動面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いと思っても、集団になるとマナーを守れない。平気で破ってしまう者がいる。 ・集団になると流される行動を取る者がいる。 ・自分の感情をそのまま出してしまう傾向がある生徒がいる。

ウ 事前アンケートのまとめ

事前アンケートの分析・考察から、以下のような手立てを行うこととした。

- (ア) 人との良好な関係性を経験する、学ぶ場を設定する。
- (イ) 目的を明確にしたスキルトレーニング、話し合いを行う。
- (ウ) 互いのよさを認め合う場、周りの人の気持ちを考える場を設定する。

(2) 指導実践計画

ア 朝の短い時間を利用した構成的グループエンカウンター「50の質問」「表情ゲーム」

1、2年生の全クラスを対象に、朝自習の時間（15分）に、構成的グループエンカウターのエクササイズ、「50の質問」と「表情ゲーム」を行う。短い時間を利用してエンカウターのエクササイズを継続的に行うことで、他者理解と自己理解が深まり、生徒の人間関係が良好になると考える。その後、学級活動などでスキルトレーニングを行う場合に、生徒同士の人間関係が構築されているので、活動にスムーズに移行できるよさもあると考える。

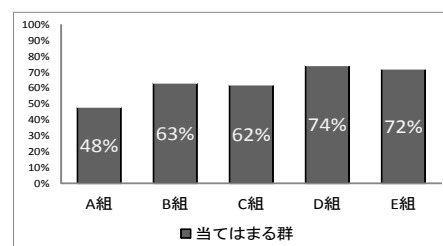
イ 学級活動、道徳の時間

集団の人間関係を良好にする活動を道徳の時間と学級活動で行う。内容についてはアンケート結果と学級担任との話し合いを基にクラスの実態に即したものにした。

(7) 自尊心を高めるエクササイズ A組

7月に生徒に実施した事前アンケート（資料1）の中から、自尊心の高さを調べる項目（質問項目①から③）から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」（以下「当てはまる群」とする。）の割合を集計し、クラス別に比較した（資料7）。その結果、A

【資料7】「自尊心」項目クラス別割合

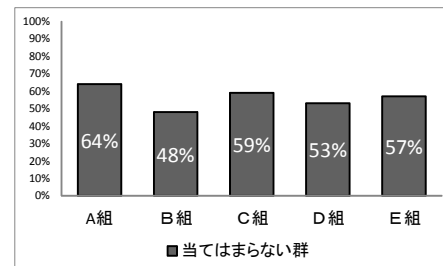


組が自尊心において、低いことが分かった。その理由として、A組生徒は全体的に消極的でリーダーシップをとる生徒が少ないことや、失敗を恐れなかなか積極的な行動がとれないという実態があることが担任との情報交換から分かった。これらの生徒の実態から、A組において自尊心を高めるエクササイズを行うこととした。

(イ) 意思決定・問題解決のエクササイズ B組

生徒に実施した「ルール」に関するアンケートの中で、「私はルールを守っていない人のせいで嫌な思いをしています」（質問項目⑫）に対する「当てはまらない群」の生徒の割合をクラス別に比較した。最も割合が低かったのはB組であった（資料8）。その理由として、ちょっとした思いつきで行動に移した結果、

【資料8】「私はルールを守っていない人のせいで嫌な思いをしています」クラス別割合

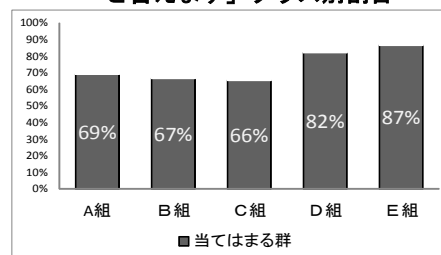


問題を起こしてしまう生徒が見られることが担任との情報交換から分かった。B組において「意思決定・問題解決」の内容を扱うエクササイズを行うこととした。

(ウ) 情動対処・ストレス対応のエクササイズ C組

生徒に実施した「ルール」に関するアンケートの中で、「私はルールを破ることを友達から誘われても嫌なことは「嫌です」と言えます」（質問項目⑬）に対する「当てはまる群」の生徒の割合をクラス別に比較した。最も割合が低かったのはC組であると分かった（資料9）。その理由として、集団の中で自分の思いが表現できる生徒が少ないことが担任との情報交換から分かった。C組において情動対処・ストレス対応のエクササイズを行うことを計画した。

【資料9】「私はルールを破ることを友達から誘われても嫌なことは「嫌です」と言えます」クラス別割合



(エ) 話し合いを中心とした活動 D組

アンケート結果から、D組は他の組に比べると特に低い数値は見られなかった。D組は自分の意見を発言できる生徒が多いことが担任との情報交換から分かった。その長所を生かせるよう規律にとどまらず、マナーやモラルについて考える時間を増やし、生徒の規範意識を高めるために、D組において話し合いを中心とした活動を行うことを計画した。

(オ) 全ての内容を行う E組

アンケート結果から、E組は他の組に比べると特に低い数値は見られなかった。E組は学級のリーダーがクラスを引っ張ってまとめていることが担任との情報交換から分かった。リーダーに頼らず、学級の一人一人が自分自身を律して行動することができるよう、E組は「自尊感情を高める」「意志決定・問題解決」「情動対処・ストレス対応」の内容と話し合い活動から、1時間ずつ選んだものを組み合わせた内容の授業を計画した。

(カ) 全体計画

アンケート結果と担任との話し合いを基にクラスの実態に合わせて規範意識を高めるのに有効であると考えられる内容、「自尊感情を高めること」「意志決定・問題解決」「情動対処・ストレス対応」「話し合いを中心とした活動」「すべての内容を行う活動」の五つに分類した。研究実践校の1年生全学級（5クラス）で2時間、2年生の全学級（5クラス）で4時間授業実践を行った。以下は、2年生の実践内容を示した（資料10）。

【資料10】 実践内容の例（2年生のもの）

クラス	内 容	1回目	2回目	3回目	4回目
A組	自尊感情を高めること	いろんな意見	短所を乗り越える	短所を長所にリフレーミング	規則について考える
B組	意思決定 問題解決	問題解決ゲーム	電車迷惑ワースト8	1番してはいけないのは	顔の見えないコミュニケーション
C組	情動対処 ストレス対応	怒りのタワー	怒りの仕組み	上手な断り方	ルールを守るためには
D組	話し合いを中心とした活動	乱れたスリッパ	ポスターでマナーについて考える	美しい鳥取砂丘	世のため・人のために
E組	全ての内容を行う	電車迷惑ワースト8	短所を長所にリフレーミング	上手な断り方	世のため・人のために

(3) 学級活動等の実践（抜粋）

ア 朝の短い時間を利用した構成的グループエンカウンター 「50の質問」

構成的グループエンカウターのエクササイズ「50の質問」を2年生全クラスに行った（資料11）。

【資料11】エクササイズ「50の質問」の内容

50の質問	【準備物】 ワークシート、筆記用具	【時間】 15分
目的	クラスの全員と話をすることを通して、クラスメイトと自分自身の新たな一面に気付く。	
内容	①教師から活動のねらいを聞く。(2分) ②エクササイズを行う。(8分) ③感想を話し合い、ワークシートに記入する。(5分)	
方法	①ワークシートに載っているクラス名簿を見て、出席番号の次の人のところへ行き、最初の質問をする。回答をワークシートに記入する。 ②ワークシートの名簿を見て、更に次の出席番号の人に2番目の質問をし、回答を記入する。 ③時間になるまで、番号の次の人に決められた質問をしていく。 ④途中、質問をされたら答える。	

生徒は予定した時間が終わっても、質問をやめようとしないうほど積極的に活動することができた。活動後に生徒に記入させた振り返りシートには、「普段話をしていない人と久しぶりに会話をした。」「自分が予想していたよりも人それぞれに答えが違って驚いた。」など、友達と自分への気付きが書かれていた。意図的に人と関わる場を設けることと活動の仕方に工夫を凝らすことで、中学生という発達段階でも抵抗なく良好な人間関係を育む活動に取り組むことができることが分かった。活動前にねらいを伝えることと、振り返りの時間をとったことが生徒の気付きを生んだと考える。

イ 学級活動、道徳の時間

(7) 自尊感情を高めるエクササイズ A組

【資料12】ブレインストーミングを用いた授業の内容

いろんな意見	【準備物】 ワークシート、話し合いの手順を示す掲示、意見カード	【時間】 50分
目的	ブレインストーミングの手順を知り、全員の意見を踏まえた話し合いを通じて、自信を持って意見を言う気持ちを高めるとともに、相手の意見を大切にすることができる。	
内容	①アイスブレーキングとして「パスデーライン」を行う。(5分) ②話し合いの方法を教師から聞かずに、普段、班で行っている話し合いを行う。(5分) ③教師から活動のねらいを聞く。(5分) ④ブレインストーミングを用いたエクササイズを行う。(25分) ⑤感想を話し合い、ワークシートに記入する。(10分)	
方法	①商品開発部の社員になったと仮定し、売り上げが伸び悩んでいる商品の改善策を班で話し合う。 ②教師から、ブレインストーミングの話し合いの仕方を学ぶ。 ③再度、ブレインストーミングを用いて同じテーマで話し合う。 ④研究実践校の近隣住民に迷惑を掛けている行為、「大声を挙げた」「私有地を通る」について、改善策をブレインストーミングを用いて解決策を話し合う。	

自尊感情を高めるために、A組において友だちの意見を尊重する授業を行った（資料12）。出された意見に対して批判はしないというルールに基づいて考えを出し合うので、意見を出すことをためらいがちな生徒も意見カードに数多く記入した。その後、規範意識を高めることと関連付け、研究実践校の問題行動、「登下校中の中学生が近隣住民に大声を挙げたり、私有地を通ったりして迷惑を掛けている行為について、改善策を考えよう」というテーマでブレインストーミングの手法を使って意見交換を行った。出された意見は「ポスターや校内放送で呼び掛けをする。」「生

徒会に働き掛けてもらう。」「部活動の終わりに部長が呼び掛け、一緒に帰る人同士で注意し合う。」などであった。相手の考えを尊重する話合いの手法を経験しながら、規律を守ることの大切さについても意識を高めることができたと考える。

別の時間には、自尊感情を高めるために、グループのメンバーから、自分の良いところを伝えてもらうことと、短所を改善するためのアドバイスをグループで出し合ってもらった。さらに短所も見方を変えれば長所ととらえられるリフレーミングを経験させた。リフレーミングの例を載せた「リフレーミングシート」を配り、生徒の考え方の参考にできるようにした。振り返りの感想には、「自分の良いところを知ることができたので、自分のことが好きになれるといい。」「友だちにどう見られているのか気になっているのは自分一人ではないことが分かった。」とあり、自分への気づきを感じられた。自分のよさに気付くことで、他律から自律による行動をとる効果が期待できると考える。

(4) 意思決定・問題解決のエクササイズ B組

B組において、「電車迷惑ワースト8」（「人間関係づくりプログラム高校生版」より引用）のエクササイズを行った。「電車に乗ったら人に迷惑を掛けない」という

【資料13】電車迷惑ワースト8 結果

順位	迷惑行為	順位決めの主な理由
1位	鬼ごっこ	危険。邪魔。
2位	喫煙	臭い。有害。線路に投げるのは危険。
3位	大声	うるさい。寝ている人もいる。
4位	割込	怒れる。早く並んだ人に失礼。
5位	携帯	耳障り。小声ならまだいい。
6位	座席	お年寄りに席を譲らないのは礼儀知らず。
7位	音漏れ	うるさい。他の行為より我慢できる。
8位	メール	人に迷惑を掛けない。

教師からの一方的な指導ではなく、自分たちで意志決定を行い、問題解決を図ることで規範意識を高めたいと考えた。授業ではグループの話合いが活発に行われ、一人一人が積極的に参加していた。はじめに自分で八つの迷惑行為の中から順位を付け、その後、グループで話し合って、順位を決定するようにした。グループで決定した順位を集計すると資料13のような結果になった。1、2位は、危険であることが理由だが、3位から8位は、ちょっとした思いつきで行ったことが周囲にどれだけ迷惑を掛けているか気付いていないことが原因である。班の人との意見交換から、多様な価値観があることに気づき、周囲に与える影響を考える視点を持つことができた

と考える。
また、良い行動にも目を向けさせたいと考え、「電車のマナーベスト3」について、内容を考えさせた。集計結果は資料14のとおりである。心掛けでできることが3位になっており、少し勇気が求められることが1位、かなり勇気が必要なものが2位という結果になった。授業後の生徒の感想には「友達はどうのように人の行動を見ているか

【資料14】電車マナーベスト3 結果

順位	良いマナー	順位決めの主な理由
1位	お年寄りや妊婦さんに席を譲る	・思いやりが感じられる ・人のことを考えている
2位	マナーを守っていない人を注意する	・1人が注意しないと誰もしない ・勇気が必要
3位	電車内では静かにする	・人に迷惑を掛けないように気がつかっている
	荷物を横に置かない	・多くの人が座ることができる

分かった。」「自分の思いばかり優先させてはいけないと思った。」「価値観が人に

よって違うことを知った。」とあり、問題行動、良い行動それぞれについて、他者と意見交換したことにより、自分中心ではない価値観に気付き、規範意識を高めることができたと考える。

(ウ) 情動対処・ストレス対応のエクササイズ C組

【資料15】「上手な断り方」のエクササイズ

上手な断り方	【準備物】 ワークシート	【時間】 50分
目的	自分も大切にするとともに相手にも配慮する言い方を理解することができる。	
内容	①アイスブレイキングとして「あいさつビンゴ」を行う。(5分) ②教師から活動のねらいを聞く。(5分) ③「上手な断り方」のエクササイズを行う。(30分) ④感想を話し合い、ワークシートに記入する。(10分)	
方法	①モデリングを見て、断り方には「攻撃的な言い方」「非主張的な言い方」「自己主張的な言い方」の三つの言い方があることを知る。 ②「自己主張的な言い方」のポイントとして、「謝罪」「断る理由」「断りの表明」「代わりの案」を提示することを学ぶ。 ③日常生活の場面を想定した場面での断り方を考え、ワークシートに記入する。 ④隣の人とロールプレイを行う。	

C組は、学級活動の時間に「情動対処・ストレス対応」のエクササイズを行った(資料15)。生徒同士でロールプレイを何度も行うことを心掛けた。頭の中で理解していてもなかなか行動として表すことが難しいときは、「繰り返す」ことが大切だと考え、相手を代えて声に出して練習した。授業の後半は、万引きの見張りを頼まれたときを想定し、きっぱりと断る言葉を考える活動を行った。断り方も、依頼の内容に応じて変える必要があることを学びとったことが「振り返りシート」の記述から分かる(資料16)。

【資料16】「振り返りシート」より

- ・いつもうまく断れていなかったから、上手な断り方を学べてよかった。
- ・自分が今までどのような断り方をしていたのかが分かった。これからは主張的な行動を取ろうと思った。
- ・ただ、「ムリ。」と断ると、相手が嫌な思いをするから、断る理由や代わりの案を言えば、互いに良い気持ちになることが分かった。
- ・きつい言い方で断るのもダメだけど、断った方がいいときは勇気を持って言おうと思った。

(イ) 話し合いを中心とした活動 D組

D組において、話し合いを中心とした活動を行った(資料17)。

【資料17】話し合いを中心とした活動内容

ポスターでマナーについて考える	【準備物】 東京メトロのポスター、ワークシート	【時間】 50分
目的	ルールとマナーの違いを知り、周りの人のことを考え行動する気持ちを持つことができる。	
内容	①ルールとマナーの違いを学ぶ。 ②電車でのマナー向上を呼び掛けた、東京メトロのポスターのキャッチコピーを考える。 ③「こんなすてきな人を見た」というタイトルのポスターのキャッチコピーを考える。	
方法	①キャッチコピーを隠した8枚の東京メトロのポスターを黒板に貼る。 ②それぞれのキャッチコピーを考える。 ③グループで話し合う。 ④ジグソー学習を行う。	

マナーについて考える活動を行った。東京メトロのマナー向上ポスターを使い、どういった行動が問題であるかをグループで話し合った。その後、多くの人と話し合いをし、クラスの人との関係を幅広く持たせるため、ジグソー学習(注2)を取り入れた。グループでの話し合いの結果を違うグループの人に報告し、再度グループに戻って報告する目的があるので、どの生徒も活発に言語活動を行った。

問題点を話し合った後、良い表れに目を向けるために「こんなすてきな人を見た」というタイトルで、ミニポスターを作らせた。生徒が取り上げた行動は、「ゴミを拾って捨てる」7人、「席を譲る」6人、「気持ちの良い挨拶をする」6人、「重たい荷物を持つ」2人、「言い争いの仲裁をする」以下1人、「音楽プレイヤーの音量を小さくする」「電車内で走っている子どもを注意する」「交通ルールを守る」「重たい荷物を持つ」「校内では走らない」であった。どの行動も周囲の人のことを考えた行動が大切であることを生徒に確認した。

電車のポスターや良い表れのポスターについて、クラスの人と活発に意見交換をしたことにより、自分の価値観との擦り合わせを行うことができたと考える。授業の終盤で生徒に書かせた「なぜマナーが必要か」という質問に、ほぼ全員が「他人に迷惑を掛けるから。」「みんなが気持ちよく生活できるため。」と書かれており、活発な話し合いによって、規範意識を高めることができたと考える。

(オ) 全ての内容を行う E組

他の4クラスで実践した内容から1時間ずつ取り上げ、組み合わせた。

生徒に実施した事前アンケート（資料1）の質問項目を3か所空欄にしたグラフを配布し、グラフからどれが1、2、3位に当てはまるか、選択肢の中から考えるようにした。ワークシートに選択肢から選んだ理由を記入し、グループで意見交換をした。その後、どうすれば規律が守れるようになるか改善策を話し合った。「自分だけでなく周りの人もしているから。」に対しては「いつかはばれる。」「見ていないと思うより見られているかもと考えることが大切。」といった意識面の内容が多かった。自分たちの回答したアンケートを基に考えることで、生徒は真剣に取り組んだ。授業を振り返った感想には「周りの人に影響されて規則を守らない人が増えると困る。」「改善策を考えることができたと言うことは、アンケートで「規則を守らなかった」と答えた人も守れるようになる可能性がある。」と書かれていた。生徒の現状を教師が把握しておくだけでなく、生徒に投げ掛けることで問題意識が高まり、内省につながると考える。

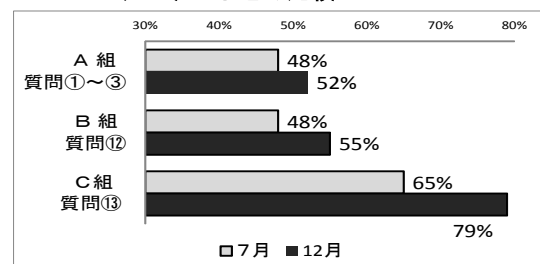
(4) 指導実践後のアンケート調査

指導実践後、12月に実践研究校の1・2年生（302人）と3年担当以外の教員（17人）に対して、事後アンケートを実施した。

ア 生徒へのアンケート集計結果

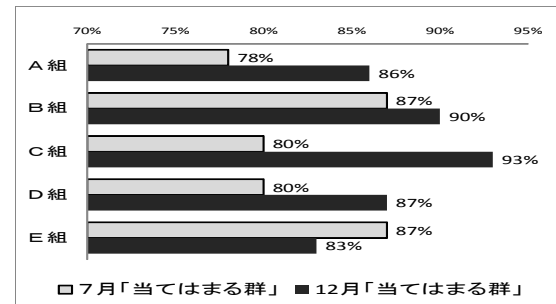
A組からC組において、7月の事前アンケートで他のクラスより低かった項目を12月のアンケート結果と比較した。（質問⑫は「当てはまらない群」の割合）その結果、3クラス全てで、高まりが見られた（資料18）。クラスの実態に応じたエクササイズ計画、実践は有効であったと考える。

【資料18】 A～C組の生徒事前アンケートで他クラスより低かった項目について、事後アンケートとの比較



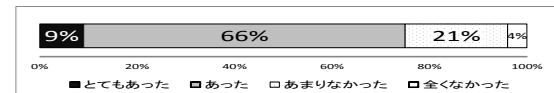
次に、規律に対する生徒の考え方（意識）の変化について、7月に行った生徒アンケート質問⑦「私はルールを守って生活している方だと思います」の「当てはまる群」の割合をクラスごとに12月の割合と比較した（資料19）。E組を除いて4クラスで高まりが見られた。

【資料19】生徒アンケートの質問⑦「私はルールを守って生活している方だと思います」



さらに、新たに設けた事後アンケート項目、質問①「授業の後、あなたの考え方に変化はありましたか」については、75%の生徒が「とてもあった」「あった」と答えた（資料20）。意識がどのように変わったか、自由記述で聞いたところ（資料21）、最も多かった回答が「友だちの気持ちを考えるようになった。」であった。自尊感情を高めるエクササイズは、他者から認められることで高まるものであり、意思決定・問題解決は他者との価値観の違いに気付いた上で、一つの決定を求めて意見の擦り合わせを行う作業である。情動対処・ストレス対応は自分の気持ちも大切にしながら、相手の気持ちへの配慮も必要である。話し合い活動においては、意見交換を活発に行うことで相手の内なる考えを知ることができる。これらの活動を通して以前より人間関係が良好になり、「相手の気持ちを考えるようになった」ことが、規範意識の高まりにつながったと考える。

【資料20】生徒質問①「授業の後、あなたの考え方に変化はありましたか」

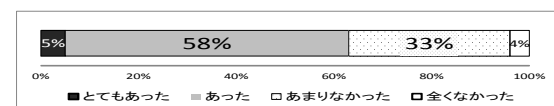


【資料21】生徒質問②「授業前と比べてどのように変わったか教えてください」生徒回答（抜粋）

- ・友だちの気持ちを考えるようになった。(35人)
- ・友だちのことが分かった。
- ・人に親切になった。
- ・友だちとの接し方を見直した。
- ・言葉遣いに気を付けようと思った。
- ・人に迷惑を掛けないことを考えた。
- ・ルールについて考えるようになった。
- ・ルールについて再確認することができ、学級や社会のためにできることをしていきたいと思った。
- ・ルールは自分だけが守れば良いと思っていたけれど、周りの人が守っていなかったら、人の迷惑になるのでなるべく注意しようと思った。
- ・学校のルールは大人になるために大事なことが分かった。
- ・ルールは守っている方だと思っていたけれど、周りの人がしていれば、ルールを破ることもあったので気を付けたいと思った。
- ・クラスのことを考えるようになった。
- ・多くの人と仲良くしたいと思った。
- ・みんなで過ごす時間を大切にようになった。
- ・表情を見て、相手の気持ちを考えるようになった。
- ・前は自分の考えにこだわっていたが、周りの意見も受け入れられるようになった。
- ・自分自身の気持ちをコントロールしようと思った。
- ・ポジティブな見方ができるようになった。

次に、質問③「授業の後、あなたの行動に変化はありましたか」で行動の変化に関しても質問した（資料22）。「とてもあった」「あった」を合わせると63%の生徒が行動に変化があったと回答した。

【資料22】生徒質問③「授業の後、あなたの行動に変化はありましたか」



続いて、質問④「「とてもあった」「あった」と答えた人は、授業前と比べてどのように変わったか教えてください」と質問をした（資料23）。

「変化があった」と答えた理由として、「いつも話をする友達だけでなく多くの人と話すようになった。」が最も多かった。全クラスで行ったエンカウンターの効果

見られた。「相手の気持ちを考えた言葉遣いをする。」や「電車のルールを守る。」
「あまり怒らなくなった。」は、それぞれのクラスで行ったエクササイズやスキルトレーニングの内容に関係したもので、生徒の書いた内容も具体的であった。このような結果から、クラスの実態に応じて、エクササイズの内容を考えていくことは規範意識を高める上で有効であったと考える。

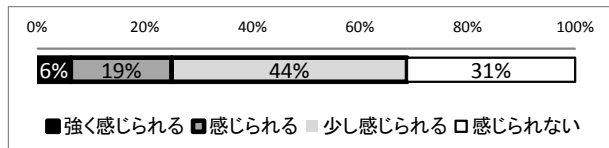
【資料23】 生徒質問④「『とてもあった』『あった』と答えた人は、授業前と比べてどのように変わったか教えてください」生徒回答（抜粋）

- ・いつも話をする友だちだけでなく多くの人と話すようになった。(33人)
- ・相手の気持ちを考えた言葉遣いをした。
- ・人を傷付けないようにした。
- ・公共の場でルールを守るようになった。
- ・時間を守るようになった。
- ・電車の乗り方のルールを守るようになった。
- ・不要物を持ってきている人を注意した。
- ・自分の意見を言い、相手の意見も聞けるようになった。
- ・友だちの気持ちを考えて行動するようになった。
- ・友だちに自分の意見を言えるようになった。
- ・けんかが減った。
- ・あいさつができるようになった。
- ・いじめがなくなった。

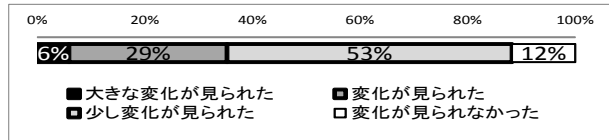
イ 教員へのアンケート集計結果

研究実践後、3年生を除く教員、17人に事後アンケートをとった。質問①「研究実践後、規律を守ることにに関して生徒の意識に変化が感じられますか」に「強く感じられる」「感じられる」「少し感じられる」と回答した割合を合わせると69%、質問②「研究実践後、規律を守ることにに関して生徒の行動に変化が見られましたか」に「大きな変化が見られた」「変化が見られた」「少し変化が見られた」と回答した割合を合わせると88%であった（資料24、25）。

【資料24】 教員質問①「研究実践後、規律を守ることにに関して生徒の意識に変化が感じられますか」



【資料25】 教員質問②「研究実践後、規律を守ることにに関して生徒の行動に変化が見られましたか」



生徒の意識と行動の変化について、自由記述で質問を行った。それぞれ理由を尋ねたところ（資料26）、意識については授業の内容についての話題が会話や日記に挙げられたという内容が多かった。生徒の意識の変化は教師から見えにくいものであるが、教師の事後アンケートで、目に見える形となって表れる行動の割合が意識の変化より高い割合で見られたのは、実践の成果と捉えた。

【資料26】 教員質問③「そのように感じた理由を教えてください」教師に対する生徒の意識変化と行動変化について主な記述回答（抜粋）

- <意識>
- ・生徒の話題の中に授業実践の内容が挙がり、意識として根付いていると感じた。
 - ・相手の嫌がる言葉を言わないように心掛ける生徒が多くなった。
 - ・数人の生徒が日記に「集団規律を守っていきたい。」という感想を書いていた。
- <行動>
- ・注意できる生徒が増えた。
 - ・仲間同士で気付くことがあれば指摘することが増えた。
 - ・トイレの使い方が良くなった。
 - ・特別教室の落書きが減った。
 - ・時間を守るようになった。
 - ・挨拶や返事ができるようになった。
 - ・言葉遣いが優しくなった。

生徒と教員から得られた事後アンケートの中から、規律を守ることに関する生徒の行動の変化に注目してみると、生徒と教員の回答に共通して挙げられた行動が「丁寧な言葉遣いで話す」「注意をする」「挨拶をする」であった。このことから、人間関係づくりを通して、適切な「言葉」を他者に掛けることが生徒の規律を守る行動に変容をもたらすことが認められた。問題行動を起こさないようにするためには生徒同士

が掛ける「言葉」が重要である。他者に働き掛けをする「言葉」は、他者を意識したものであり、集団として高まっていくとする思いが感じられる。良好な人間関係づくりの成果だと考える。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

ア 人間関係づくりを土台とした実践は、75%の生徒に規範意識の変容をもたらし63%の生徒の行動に変化が表れた。構成的グループエンカウンターや学級の実態に即したエクササイズ、スキルトレーニング、話し合いを行うことで、生徒の意識に「相手の気持ちを考える」という変容が見られた。特に、生活の中の具体的な場面を想定した活動により生徒の気付きに変化が表れ、規範意識の高まりにつながった。

イ 良好な人間関係づくりを行う手立てとなる学級の実態に即したエクササイズは、学級集団の長所を更に伸ばし集団意識を高めることとなり、規律を守る行動につながると考える。

ウ 人間関係づくりを土台とした指導は、生徒が他者に対して行う言葉掛けに変化をもたらし、規律を守る行動につながる効果を持つ。

(2) 今後の研究課題

ア 生徒のアンケート調査を基に、クラスの実態に適したエクササイズはどのような内容であるべきか、今後も検討が必要である。そこで人間関係を良好にするエクササイズを通して規範意識を高めることについて更に考察を行い、より効果の上がるものにしていく。

イ 人間関係づくりを良好にすることで、生徒の規範意識が高まったことから、人間関係づくりの重要性を地域の学校に発信し、幅広く生徒の規範意識を高めていく。

ウ 規律を守り行動するためには、集団が成長する機会となる行事などの特別活動との関連も重要である。良好な人間関係づくりと特別活動を組み合わせた実践を考えていく必要がある。

注

1) 『教育基本法』前文第二章第六条二項より 2008年。

2) ジグソー学習とはもともとAronson (1978) らによって開発された方法で、誰もが発表者となることで、全員の表現力、思考力を高める有効な学習方法である。

参考文献

- ・荒木紀幸監修『モラルジレンマ教材である白熱討論の道徳授業』, 明治図書, 2013年.
- ・林泰成『モラルスキルトレーニングプログラム』, 明治図書, 2011年.
- ・國分康孝監修『社会性を育てるスキル教育 35時間』, 図書文化, 2006年.
- ・國分康孝監修 押切久遠著『クラスでできる非行予防エクササイズ』, 図書文化, 2001年.
- ・中大路浩一著「中学校における規範意識の育成を目指してー学級の状態を把握し、人間関係を深め自尊感情を高める指導モデルの提示ー」, 京都市総合教育センター, 2011年.
- ・越智泰子、加島ゆう子、大島和子、棚橋厚子著『自己肯定感がぐんぐん伸びる45の学習プログラム』, 合同出版, 2012年.
- ・山中太著『「良い行い」を導く道徳授業中学校版』, 日本標準, 2009年.
- ・『道徳教育 6月号』, 明治図書, 2012年.
- ・静岡県教育委員会『人間関係づくりプログラム』, 2013.